

PD

vol.

1

Ambassador Report



社会医療法人誠光会
淡海ふれあい病院
西尾利樹先生

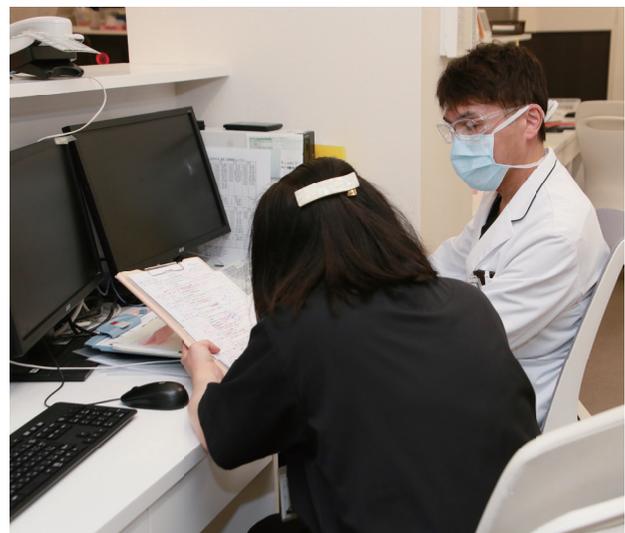
チーム医療で進める「PDファースト」 ～腹膜透析導入促進における看護スタッフの在り方～

末期腎不全に対して行われる透析療法といえば、従来、血液をろ過して不純物を除去する血液透析が主流でした。しかし、近年は患者さん自身の腹膜を利用して不純物を除去する腹膜透析を選択する環境が整いつつあります。腹膜透析を積極的に導入している淡海ふれあい病院副院長兼じん臓病ケア総合センター長の西尾利樹先生に、腹膜透析のメリットや導入促進にあたってのポイントなどを伺いました。

マイナスイメージから プラスイメージへ

日本透析医学会統計調査によると、2020年末における透析患者総数は約31万7000人で、そのうち腹膜透析の患者さんが占める割合はわずか3%（血液透析との併用を含む）にすぎません。腹膜透析が広まらない理由について西尾利樹先生は次のように話します。

「腹膜透析の患者さんを診られる医師が少ないことが、普及を妨げている大きな要因だと思います。診た経験がないことに医師は躊躇しがちですし、仮に一步踏み出したとし



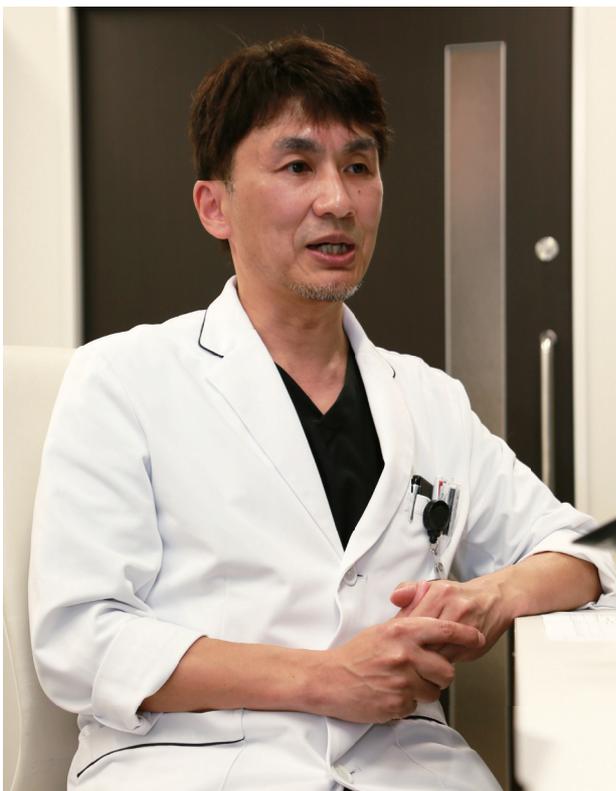
でも、医師1人で診られるのはせいぜい5人ぐらい。それ以上診るにはチーム医療での対応が必要です。これも腹膜透析がなかなか増えない理由です」

西尾先生自身、若い頃に腹膜透析を導入されている患者さんを診たのは数えるほど。しかも、当時は腹膜透析に対して良い印象を持っていなかったといいます。というのは、当時出会った腹膜透析の患者さんは、血液透析をすると血圧が低下するため、そうせざるを得なかったというネガティブセレクション（消極的適応）のケースがほとんど。腹膜透析を導入しても体調がすぐれず、予後もよくありませんでした。

そんな西尾先生の意識が180度変わったのは、2003年に腎臓内科医長として就任した音羽病院（京都市）で見たある光景がきっかけでした。

「腹膜透析の患者さんたちがソファに座ってみんなで賑やかに話をしたり、テレビを見て笑ったりしながら透析液のバッグ交換をしていました。しかも、バッグ交換後はすたすたと歩いて帰られるのです。ひょっとしたら腹膜透析は良い治療なのではないかと思い、改めて学んでみると、腹膜透析には多くのメリットがあることがわかりました」

その後、済生会滋賀県病院の透析センター長として赴任された西尾先生は「可能な人にはまず腹膜透析を導入



する」という“PD（腹膜透析）ファースト”を治療方針として掲げたのです。以降、草津総合病院（現淡海医療センター）や現在勤務する淡海ふれあい病院でも、この方針を掲げています。

腹膜透析でのチーム医療の要は 看護スタッフ

腹膜透析が広まらない理由の一つに、チーム医療体制の整備の難しさがあります。

「血液透析の患者さんに対しては、看護師は体重や血圧を測定したり、ベッドサイドで困りごとを聞いたりして濃密な関わり方をしている。一方、腹膜透析の患者さんには看護師はほとんど関わっていない。同じ透析患者なのだから、腹膜透析の患者さんにも血液透析の患者さん同様の関わり方をしてほしい」

腹膜透析でのチーム医療の要は看護師と考えた西尾先生は、透析センターの看護師長にこんな相談を持ち掛けました。看護師長は西尾先生の意見に賛同し、腹膜透析に興味のある看護師を担当にしました。担当看護師は腹膜透析の患者さんと積極的にコミュニケーションを取り、そこで得た情報をもとに西尾先生たち医師にさまざまな提案をするようになりました。例えば、家族の状況などから「この患者さんはレスパイト入院させたほうがいい」と提案されたことがありました。

「私はその提案どおり、本人や家族にレスパイト入院を勧めました。家族は本人を入院させることに後ろめたさを感じがちですが、医師が勧めれば『お医者さんが言うならば』と抵抗なく入院させられます。そもそも、患者さんやご家族は医師の前では元気な姿を見せようとするものです。本音を話せるのは、医師よりも看護師。腹膜透析において看護師の役割は非常に大きいと思います」

看護スタッフは腹膜透析関連のセミナーや研修に頻繁に参加しています。また、同病院は医師・看護師腹膜透析研修医療機関に認定されており、他施設のスタッフが学びに来ることは、腹膜透析担当スタッフ一同の大きな刺激になっています。

また、西尾先生が以前勤めていた病院は急性期病院で療養病棟がなく、近隣にも療養病棟をもつ施設がなかつ

たため、療養入院が必要な透析患者さんには家族が見舞いに行くにも不便な、遠く離れた病院を紹介せざるをえませんでした。しかし、淡海ふれあい病院には療養病棟があり、腎臓病棟もつくられました。ここにも腹膜透析に興味を持つ病棟看護師が配置されています。



高齢の透析患者こそ “PDファースト”が向いている

2021年9月現在、同透析センターで対応する血液透析患者は126名、腹膜透析患者は90名と40%を超えます。しかも、腹膜透析患者さんの多くが高齢者です。西尾先生は「高齢の透析患者さんこそ“PDファースト”が向いている」と強調します。

腹膜透析は自宅で透析ができ、しかも毎日穏やかに透析を行うので身体への負担は少なくてすみます。こうしたメリットに加え、見逃せないのが「食事制限が緩いこと」と西尾先生。「当病院の近辺は野菜や果物の栽培農家を営む人が多くいます。透析になった途端に、自分が栽培していた作物を『食べてはだめ』と制限されたら誰でも悲しくなります。腹膜透析であれば、透析液にカリウムが入っていないので、通常、カリウムの制限は不要です。『以前と同じように自慢の野菜や果物を食べられて嬉しい』と高齢の腹膜透析患者さんからよく言われます。高齢者が食の楽しみを失わずに残りの人生を送れることはQOL（生活の質）の維持につながり、有意義だと思います」

腹膜透析であれば、高齢になると食事量が減ってくるのでバッグ交換回数が少なくてすみ、その分、腹膜に対す

るブドウ糖の負荷を軽減でき、長期にわたって治療の継続が可能。実際、在宅で最期を迎えられる高齢の腹膜透析患者さんが少なくありません。西尾先生は「腹膜透析の患者さんのご家族から、『住み慣れた家で看取ることができました。本人もとても喜んでいてと思います』といったお手紙をいただくことがあります」と話します。

病棟看護スタッフに PDに興味をもってもらうための秘策

西尾先生は“PDファースト”が浸透したのは「方針を変えなかったから」と言います。「方針が二転三転すると、どう対応すればいいか迷ってしまう。逆に方針を明確に示せば、スタッフはどのような看護をすれば良いかを自分たちで考えるようになります」。

西尾先生自身は透析センターの師長に相談することからチーム医療の体制づくりを始めましたが、「腹膜透析の良さを知っている看護師を見つけて、一緒に広めていくのも良い方法」とアドバイスします。

実は西尾先生は病棟看護師に腹膜透析に興味をもってもらうための秘策を講じています。

腹膜透析患者さんは半年～1年ごとに腹膜の透過性を調べる腹膜平衡機能検査を受けなければなりません。この検査は外来でもできますが、西尾先生はあえて入院検査というかたちを取っています。「腹膜透析患者さんが入院するときは、通常は腹膜炎などの合併症を起こして健康状態が良くないときです。そういう患者さんばかりを見ている病棟看護師は腹膜透析に対して負のイメージを持



ちがちです。ところが、腹膜平衡機能検査を受ける透析患者さんは元気に入退院される。そうした患者さんを見ると、かつての私がそうだったように、腹膜透析は良い治療かもしれないと思うスタッフが増えて来るのではないでしょうか」。

腹膜透析の担当看護師には高いコミュニケーション能力が求められますが、同時に、患者さんそれぞれに合った対応ができる力も備わっていなければなりません。「腹膜透析をこれから増やそうというときには、いろいろな患者さんと接してきた、看護師歴が少し長い人が適任かもしれません」と西尾先生。

腹膜透析では、透析液を腹腔内に出し入れできるようにカテーテルを腹部に挿入する手術が行われます。手術をしたあとは約2週間での退院を目標に、同透析センターオリジナルの導入時パスに沿って、患者さんに在宅での自己管理に必要な知識や手技を指導します。退院後は基本的に自立を目指しますが、必要な方には訪問看護師に介

入してもらうため、担当看護師は患者さんの退院が近づく訪問看護ステーションと連絡を取り、自宅でも安心して腹膜透析を続けられるようにサポートしています。腹膜透析を広めるにはソーシャルワーカーや在宅支援スタッフとの連携も必要です。

現在の大きな課題は、腹膜透析患者を診られる訪問診療医がほとんどいないことです。腹膜透析患者さんを診られる訪問診療医を育てることが、西尾先生の夢だといえます。

西尾先生の腹膜透析普及の取り組みはこれからも続きます。



PD患者の西村きみ子さん(撮影当時88歳)と。91歳の旦那様がAPDの操作を一人で担当していた

社会医療法人誠光会 淡海ふれあい病院 Omifureai Hospital



所在地 滋賀県草津市矢橋町1629-5
 開設 2020年10月1日
 診療科 内科、外科
 許可病床数 199床／一般 100床(地域包括ケア病棟)療養 99床(医療療養病棟)

「腹膜透析をより多く知ってもらうために」
 医療従事者向け情報サイト
 基礎知識からお役立ち情報までご紹介

- 腹膜透析とは
- 医療従事者向け勉強会資料
- 資料集ダウンロード
- セミナー情報

PDに関するセミナーレポートをWEBで公開しています



JMS PD

SEARCH



PD | 製品関連情報 | JMS医療関係者向けサイト
<https://medicalcapd.jms.cc>



株式会社 ジェイ・エム・エス
<http://www.jms.cc/>

2022.05.015C167-HS